

M20221231_04_Michigan

リキッド バイオプシ、転移性ガンの生存確率を予想

ガンが成長し、身体の新たな部分へ広がるにつれて、ガンは細胞や DNA を血流に落とす。DNA は、存在する DNA の量、潜在的な突然変異があるかどうかの両方で分析される。これは、治療を決定する上で役立つ。

「これらのテスト、リキッドバイオプシ(Liquid biopsies)は、ある種のガンでは標準的な技法になっている。特に確かな DNA 突然変異を標的にする薬剤がある場合である。リキッドバイオプシは、どの患者が他の患者よりも良好かどうかを理解するには役立つが、未確認である。

血流に見つかる DNA は、正常な細胞かも知れない。腫瘍が落とした DNA の量を身体一般的な DNA 量と比較して計測することは、生存を予測し、ガンが乳房、前立腺、肺あるいは大腸から広がった患者に治療を説明するガイドの新たなツールになりうることを、新しい研究は、見出した。

腫瘍 DNA が、患者の血流で少なくとも DNA の 10%を構成する場合、調べた全てのガンタイプで、血流に腫瘍 DNA がもっと少ない患者と比較すると、その患者が生存する可能性は著しく少ないことを研究チームは発見した。

血流に 1%以下の腫瘍 DNA がある転移性乳ガン、または肺ガン患者を診たときに、その計測は同じくらい正確だった。これらの患者は、血流により多くの腫瘍 DNA がある患者よりも長く生きる可能性は十分にある。

「患者の腫瘍で、このような分析的なものを見る理由は 2 つ。1 つは、次に何をすべきかを教えてくれること。もう 1 つは、何を期待しているかについて患者と相談する際に役立つ」と、Zachery Reichert, M.D., Ph.D.は、説明している。同氏は、Michigan Health Rogel Cancer Center で泌尿器腫瘍学を専門にする臨床内科医、臨床准教授。

「いくつかのガンで、われわれは、どれがよりよいかかわからないと、処置には複数のオプションがある。これらの病気のリスクをもっとよく理解することは、患者や提供者が処置リスクのバランスを改善する上で役に立つ」。

DNA の内容

これら血流は、リキッドバイオプシの最新の反復処理である。血液サンプルにガン細胞(この場合は、小さな DNA 破片)があるかどうかを教えるテストで

ある。

「われわれは、患者の初歩的な直感に頼ることがよくあるが、その正確さは疑問である。それは、患者に効果的に相談する機会の喪失となる。リキッドバイオプシが標準治療として病気に提供されると、何をすべきかだけでなく、どんな結果を見込むかを予想するコンテクスが得られる。それこそ、患者と議論できることである」(Reichert)。

これらのリキッドバイオプシは、EGFR+突然変異の肺ガン患者、脳転移の患者には生存予測は、あまり成功しなかった。結果は、Reichert には、驚きではない。

このテストは、例えば、脳転移には、適さない可能性がある。血液脳関門のために、ガン細胞は血流に多くの DNA を落とさない可能性があるからだ。また、EGFR(上皮細胞因子受容体)遺伝子変異には標的治療がある。これは非常に効果的なので、存在するガンの量は重要ではない。

この研究の成果を確認するにはさらなる研究が必要になるが、全てのガンタイプでテストが生存予測に成功したことは、心強い、と Reichert は話している。



(Justine Ross, Michigan Medicine)